

人生の転機に思うこと ～公務員とコンサルタント～

京都市上下水道局 下水道部計画課 (H10) 三吉 晃



早いもので、大学を卒業してからもう10年目を迎えています。そんな10年目の春、人生の転機が訪れました。9年間勤めてきた上下水道コンサルタント会社を退職し、公務員として社会人第二のスタートを切ることになったのです。

転職したとはいえ、同じ上下水道の世界に残ったわけですから、現職場ではこれまでの経験を活用する場面が至るところにあります。在職9年の間に自分を育ててくれ、いろんなことを経験させてくれた前の会社には、大変感謝しているところです。

現在私は下水道部計画課に在籍し、主に京都市の下水道における計画業務に携わっています。京都市では下水道普及率は既に99%を超えており、もうほとんど下水道事業は完了したかのように思えますが、実は下表に示した施策をはじめとして、他にもやるべきことがたくさん残っているのです。

表1 今後取り組んでいかねばならない主な施策

主な施策	内 容
浸水対策	“10年に1度の大雨”でも浸水が起こらないように、雨水管渠、ポンプ場、雨水貯留管などを整備する。
下水高度処理	大阪湾の水質保全と、淀川下流地域における良好な水道水源確保のため、下水処理の高度化を進める。
経年化施設 改築更新	今後、耐用年数を超えた施設や管渠が徐々に増えていくため、予算の制約を考慮して計画的に改築更新を行っていく。
地球温暖化 対策	地球温暖化防止の観点から、省エネ、小電力発電、及び温室効果ガス排出量抑制などに取り組んでいく。

これらの施策の計画を立案する際には、その作業の一部（場合によってはほぼ全部？）をコンサルタントにお願いしています。長い間自分がお願いされる側に居たこともあり、転職して9ヶ月経った今でも、この立場の変化には違和感があります(笑)。

公務員として上記の施策を実施する上では、技術的業務だけではなく、役所内での意思決定、予算の確保、市民対応、及び市会（議会）対応など、すべきことは多岐にわたり、それらを限られた時間で消化していかなければなりません。ですので、専門的な知識やノウハウ、及び大きな作業量を要する技術的業務を行う上で、コンサルタントは重要な役割を担っていると思います。自分自身が公務員になってから、改めてそれを認識しているところです。

公平性が求められる公務員としての倫理は当然遵守せねばなりません。コンサルタントの皆さんを重要なパートナーとして、これからの京都市の下水道事業をよりよいものにしていければと思っています。